



sousei akita

曹青秋田

秋田名物 ～7教区長泉寺(中村会長御自坊)の佛様～



平成二十七年 通常総会

平成二十七年四月七日午後二時より、宗務所禅センターにて平成二十七年通常総会が開催されました。平成二十六年度事業・決算報告並びに平成二十七年事業計画・予算案が審議され承認されました。

また、任期満了に伴う役員改選が行われ、新会長に第七教区長泉寺中村卓道師が選出されました。次いで会長の推薦により、副会長に第十一教区円通寺菅原芳徳師、第十五教区久昌寺赤石基彦師が就任し、鈴木泰賢前会長が新顧問に承認されました。

今年テーマを設けず広く学び、明るく楽しい青年会を作るという方針で運営していくことになりました。

就任にあたり



会長 中村 卓道

この度、去る四月七日に開催されました通常総会において、鈴木前会長の後任として新たに秋田県曹洞宗青年会会長の任を仰せつかりました、第七教区長泉寺住職、中村卓道と申します。

当青年会は現在、百四十名の会員を有しておりますが、各方面で多彩な活躍をされている人材が大変多い青年会だと感じております。そんな中で私のような者が会長職に就かせていただくのは、全員の力不足であると思いましたが、今でも忘れられない、総会でご推薦いただき承認されました際の満場一致の盛大な拍手、あの情景、あの時感じた空気を会員諸師からの叱咤激励の声と受け止め、今まで諸先輩方が築いてこられた秋曹青の歴史を汚すことなく、新たな歴史を刻めるよう精進して参ります。

秋曹青の支えとして



副会長 菅原 芳徳

四年前の大震災のさなか、住職を拝命し、鹿角市に帰郷して以来、教区寺院さまはもちろんの事、縁故ある県内各寺院様、そしてこちらの秋田県曹洞宗青年会には大変お世話になって参りました。

二年前より代議員の任を頂戴しておりましたが、この度、副会長職を受けるにあたっては、私には荷が重く逡巡いたしました。

ただこのお務めは、会長さんが指し示す大きな方向性を補佐し、支える柱や梁の一つとして会に貢献させて頂ける有り難い機会であり、報恩の気持ちで第一に相務めて参りたい所存であります。

中村会長の個性溢れる人柄を旗印に、県内青年僧侶の「人間力」をエンジンにして、秋曹青が共に学び、共に助け合い、そして共に笑い（時には歌いつつ・・・）ながら、同行・同修の道を邁進出来ましたら、と思います。

役目を全うするべく



副会長 赤石 基彦

私も帰郷してから早いもので十五年目となり、青年会員でいられる年数も指折り数えることができるといふくらいになりました。私の青年会員として残り少ない賞味期限の中の二年間を、これまた副会長という重要なお役目を中村会長に任せられ新執行部入りし活動することになるうとは、二期前の秋曹青事務局長を終えた時点では思ってもみないことでした。

でもこのタイミングで今回の役が自分にやってきたことと、それまでに様々な巡りあわせがあったことを思うと何か感慨深いものがありました。そのうち「これもご縁だな」と考えるようになり、自分で

秋曹青会員並びに県内寺院皆様、二年間、お世話になります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。合掌

は副会長たる資質を持ち合わせずこの身にそぐわない役職であると知りつつも、謹んで役をお受けした次第です。

この任期中私は陰ながら目立たず地味にコツコツと副会長の本分を全うし、少しでも秋曹青のお役に立てるように努めて参りたいと思っております。二年間、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

憧れの中村会長と共に



事務局長 田中 裕憲

今期より事務局長に就任致しました第一教区西来院田中裕憲が会長就任の際には事務局へとお誘いを頂いておりました。その温顔は周りの心を癒し、心遣いは先輩後輩の隔てなく、ユーモアに溢れる言動は関わる者を魅了し、宗門内外での活躍めざましい中村会長は私の憧れであります。

中村会長と出会い、その御懇意に甘え続け早十六年。些少ながらも報恩行になればと、自らの能力も省みず拜命した次第です。

しかし引き受けた以上、歴代会長をはじめ会員の諸先輩が築き上げた秋曹青の枠組みを継承し、尚且つ中村会長のカラーが存分に発揮できるよう、微力ながらお手伝いさせていただきます。至らぬ事務局長でございますが、県内宗門寺院皆様の御指導と会員諸兄の御法援を賜り、特に今期役員・代議員皆様の御協力を仰ぎながら任期二年精進致します。何卒宜しくお願い申し上げます。

弁道会

〜葬儀法具の意味と使い方〜

本年度初めてとなる青年会の行事・弁道会が六月二十五日、秋田市勝平寺様にて開催されました。会長の強い要望により新潟県阿賀町正壽寺御住職・呉定明老師をお招きし、「葬儀法具の意味と使い方」と題し講義をしていただきました。

最近の僧侶が出演しているバラエティー番組は嘘ばかりだ

という衝撃的な指摘から始まり、終始熱の入った二時間にわたる講義でした。内容全てが興味深いものでしたが、我々若手僧侶に学んだ作法を全て伝えたいという情熱に深く感動しました。仏法に対して真剣に向き合う姿勢の大切さ、嗣法の重要さを改めて考えさせられました。

経典や文献から葬儀の正当性を主張することが昨今の風潮ですが、葬儀を執り行う我々の意識が最も問われていることだと思えます。呉老師は幼い子供を残して亡くなった方の場合、子供がいつでも触れることが出来るようにと少し遺髪を半紙に包み渡すそうです。気持ちの在り様によって葬儀に臨む姿勢も変わり、何気なく使用している法具に対する興味や意識が生まれてくるものだろうと感じました。

講義内容は多岐にわたるものでした。資料などは全て自由に使うて良いとのことでしたので、今回出席出来なかった会員の方々はぜひ事務局に問い合わせ呉老師の講義に触れていただきたいと思います。僧侶としての意識が再生する良い機会になることでしょう。

(菊地大樹 記)



平成26年度 秋田県曹洞宗青年会収支決算書

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

総収入	2,084,776
総支出	1,665,837
収支残高	418,939

収入の部

単位：円

項目	26年度予算額	26年度決算額	増減	摘要
1 会費	1,209,000	1,277,000	68,000	
1. 年会費	675,000	690,000	15,000	5,000円×138名
2. 賛助会費	534,000	587,000	53,000	
2 補助金	500,000	500,000	0	宗務所補助
3 寄付金	1,000	0	▲1,000	
4 雑収入	1,374	150	▲1,224	受取利子
5 繰越金	307,626	307,626	0	前年度繰越金
合計	2,019,000	2,084,776	65,776	

支出の部

項目	26年度予算額	26年度決算額	増減	摘要
1 事業費	1,100,000	967,501	▲132,499	
1. 研修費	850,000	772,613	▲77,387	弁道会 53,000 住職学・祈りのつどい 214,243 随聞会・伊勢研修旅行 505,370
2. 広報	250,000	194,888	▲55,112	会報印刷、HP 運営他
2 事務局費	240,000	113,421	▲126,579	
1. 事務記録費	40,000	7,125	▲32,875	インクカートリッジ等
2. 通信費	130,000	61,560	▲68,440	各種案内発送等
3. 交際費	50,000	30,592	▲19,408	祝賀等
4. 慶弔費	20,000	14,144	▲5,856	電報等
3 事務局費	40,000	40,000	0	コピー機等事務機器使用経費
4 会議費	40,000	22,915	▲17,085	
1. 総会	20,000	20,000	0	総会補助
2. 役員会	20,000	2,915	▲17,085	代議員会
5 負担金	185,000	187,000	2,000	全曹青会費、東北地協会費
6 補助金	300,000	285,000	▲15,000	出向補助、参加者補助
7 積立金	50,000	50,000	0	東北大会準備金
8 予備費	64,000	0	▲64,000	
合計	2,019,000	1,665,837	▲353,163	

東北大会準備金

第39回東北大会残金	2,403,000
平成26年度積立額	50,000
合計	2,453,000

平成26年度 事業報告・ボランティア活動報告

日付	内容	場所	人数
平成26年			
4月4日	通常総会	秋田キャッスルホテル	32名
4月10日	東北地協: 常任・定例幹事会	郡山市 郡山ビューホテル	5名
4月22日	第1回 代議員会	秋田市 遊学舎	19名
5月20日	全曹青: 定期評議員会 40周年記念式典	曹洞宗檀信徒会館	会長出席
5月21日	全曹青: 40周年記念講演 定期総会		
6月3日	第28回 弁道会 「秋田の民俗信仰と神仏習合」 齊藤壽胤 先生	宗務所・禅センター	46名
6月19日	執行部会	能代市 清徳寺様	9名
6月25日 ~26日	全曹青: 40周年記念事業 東北管区・傾聴研修会	福島市 ホテル辰巳屋	7名
6月29日	住職学研修 祈りのつどい	秋田市 東泉寺様	24名
7月18日	第2回 代議員会	秋田市 歓喜寺様	17名
7月21日	映画「1000年後の未来へ」大槌町上映会	大槌町中央公民館	7名
7月31日	「曹青秋田」第77号発行		
8月18日	執行部会	能代市 倫勝寺様	5名
8月25日	第1回 東北大会実行委員会	秋田キャッスルホテル	36名
9月11日	東日本大震災 大槌町殉難者・犠牲者供養会	大槌町 江岸寺様、他	7名
10月10日	第2回 東北大会実行委員会	秋田市 東泉寺様	32名
10月28日	東北大会前日準備会	秋田キャッスルホテル	51名
10月29日	東北地協: 常任幹事会 東北地方集会「秋田大会」	秋田キャッスルホテル	会員当日62名
11月26日	全曹青: 臨時評議員会・災害復興支援部研修会	曹洞宗檀信徒会館	会長出席
12月19日	曹洞宗復興支援室分室・全曹青災害復興支援部: 国見町・仮設住宅年越し行茶	福島県国見町 大木戸ふれあいセンター	5名
平成27年			
1月15日	第3回 代議員会	秋田市 光琳	19名
2月24日 ~26日	第32回 随聞会 伊勢研修旅行 「神宮と神道の祭祀について」 菅野覚明先生	鳥羽・伊勢神宮・熱田神宮	15名
2月27日	東北地協: 常任幹事会		欠席
3月11日	東日本大震災慰霊追悼法要	大槌町 吉祥寺様 山田町 龍泉寺様	5名
3月31日	「曹青秋田」第78号発行		
4月1日	第4回 代議員会	宗務所・禅センター	24名

は秋曹青主催・主管事業

平成27年度 秋田県曹洞宗青年会収支予算書(案)

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

総収入	2,066,000
総支出	2,066,000
収支残高	0

収入の部

単位：円

項目	26年度予算額	27年度予算額	増 減	摘 要
1 会費	1,209,000	1,145,000	▲ 64,000	
1. 年会費	675,000	645,000	▲ 30,000	5,000円×129名
2. 賛助会費	534,000	500,000	▲ 34,000	
2 補助金	500,000	500,000	0	宗務所補助
3 寄付金	1,000	1,000	0	
4 雑収入	1,374	1,061	▲ 313	受取利子等
5 繰越金	307,626	418,939	111,313	前年度繰越金
合 計	2,019,000	2,066,000	47,000	

支出の部

項目	26年度予算額	27年度予算額	増 減	摘 要
1 事業費	1,100,000	1,150,000	50,000	
1. 研修費	850,000	800,000	▲ 50,000	弁道会・随間会・住職学等
2. 広報	250,000	350,000	100,000	会員名簿、会報、HP 運営等
2 事務費	240,000	240,000	0	
1. 事務記録費	40,000	40,000	0	事務用品等
2. 通信費	130,000	130,000	0	各種案内発送等
3. 交際費	50,000	50,000	0	祝賀等
4. 慶弔費	20,000	20,000	0	電報等
3 事務局費	40,000	40,000	0	事務機器使用経費
4 会議費	40,000	40,000	0	
1. 総会	20,000	20,000	0	総会補助
2. 役員会	20,000	20,000	0	代議員会等
5 負担金	185,000	179,000	▲ 6,000	全曹青会費、東北地協会費
6 補助金	300,000	300,000	0	出向補助等
7 積立金	50,000	50,000	0	東北大会準備金
8 予備費	64,000	67,000	3,000	
合 計	2,019,000	2,066,000	47,000	

尚、各項目間の流用を認めるものとする。

平成27年度 秋田県曹洞宗青年会事業・活動計画(案)

日 付	内 容	場 所	備 考
平成27年			
4月2日	東北地協: 常任・定例幹事会	仙台市 仙台国際ホテル	
4月7日	通常総会	宗務所・禅センター	
5月11日	全曹青: 中央研修会・定期評議員会	曹洞宗檀信徒会館	
5月12日	全曹青: 定期総会		
6月25日	第28回 弁道会	秋田市 勝平寺様	
11月	全曹青: 臨時評議員会・研修会	曹洞宗檀信徒会館	
11月	第32回 随聞会		
平成28年			
2月	東北地協: 常任幹事会		
2月	住職学研修		

※災害復興支援ボランティア活動と代議員会の開催、会報「曹青秋田」の発行は随時行う

は秋曹青主催事業

平成27年度 役員名簿

役 員 ・ 事 務 局 員				代 議 員		
会 長	中 村 卓 道	7 教区	長泉寺	佐 藤 俊 明	1 教区	白馬寺
副 会 長	菅 原 芳 徳	11 教区	円通寺	佐 藤 秀 嗣	2 教区	陽広寺
副 会 長	赤 石 基 彦	15 教区	久昌寺	矢 萩 宗 淳	3 教区	慶祥寺
監 事	村 松 玉 宗	1 教区	源正寺	佐 藤 良 浩	4 教区	清光院
監 事	佐々木 孝 洋	9 教区	見性寺	木 島 宏 人	5 教区	信翁院
監 事	奥 山 一 英	10 教区	福寿寺	伊 藤 徹 秀	6 教区	栄昌寺
事 務 局 長	田 中 裕 憲	1 教区	西来院	佐々木 耕 志	7 教区	福城寺
事 務 局 次 長	遠 藤 隆 治	7 教区	徳昌寺	安孫子 賢 太	8 教区	東陽寺
会 計	佐々木 賢 慈	7 教区	満勝寺	木 村 高 寿	9 教区	梅林寺
書 記	佐 藤 良 浩	4 教区	清光院	奥 山 春 彦	10 教区	浄福寺
庶 務	高 柳 龍 哉	1 教区	勝平寺	松 井 祐 司	11 教区	長年寺
庶 務	伊 東 義 寛	4 教区	光禅寺	三 戸 和 廣	12 教区	玉龍寺
庶 務	戸 沢 広 悦	6 教区	長泉寺	三 浦 大 伸	13 教区	永源寺
庶 務	清 水 道 広	10 教区	正法院	渡 會 泰 明	14 教区	快禅寺
				岡 部 顕 雄	15 教区	龍泉寺
				中 村 智 信	16 教区	松雲寺
				浅 原 拓 磨	17 教区	祇園寺
				大 佐 賀 正 信	18 教区	実相寺

月いちカフェ

〓写経と写佛で心の洗濯〓

「日常生活の手を休め、ちよっと息抜きに写経や写佛をしませんか。お茶とケーキの休憩を取りながら、ゆっくり丁寧な時を過ごしましょう」——そう呼びかけて開催されている《月いちカフェ》を取材させて頂いた。

夕方六時過ぎ、秋田駅前アルヴェ四階の一室。老若男女が次々と受付を済ませ、会場に入っていく。参加費は五百円で、珈琲かお茶かを事前に選んでおく。この日の参加者は四十七名。年齢は二十代から七十代までと幅広く、女性が七割以上を占めていた。

運営に当たる「店員」は六名。元々は黒木淳祐師(十二教区・満蔵寺副)と柴田和明師(二教区・東泉寺副)が家族ぐるみで親しくしていた事に始まる。両方の師寮寺で別々に行なわれていた写経講座を、初めて合同で開催したのが一昨年の秋頃。後に近藤俊彦師(三教区・圓通寺副)、鮎川義寛師(四教区・珠林寺副)、松山純正師(一教区・林清寺副)が加わった。更には柴田師のスキー仲間、秋田市仁

別にあるザ・ブーンズの営業企画課で働く佐藤真一郎さんも手伝うようになつた。「職場が大切にしている体の健康と、写経・写佛で培われる心の健康に繋がりをを感じる」と彼は語ってくれた。

六時半。黒木師の法話の後に写佛が始まる(《月いちカフェ》では写経と写佛を交互に行なっており、この日は写佛)。手に香を塗り、深呼吸して心身を清めたうえで、写す佛様の御名を合掌しながら三遍お唱えしてよいよ開始。どの佛様にするかは、参加者がレベルに応じて自分で選ぶ。お釈迦様・観音様・お地藏様は宗門公式のものだが、お不動さんや金毘羅さん等は黒木師の筆になるもので、その画力の高さに驚かされた。

七時二十分、休憩。店員達が準備した飲物とおやつで一息入れる。黒木師の奥様手作りのシフォンケーキも振舞われた。

この間、参加者にお話を伺った。四十代の主婦、元々興味があつて新聞で存在を知り、数回の参加歴。「市販の写経キットを買って自宅で挑戦しようとしたけど、日常生活に追われてなかなか時間が取れない。ここでは佛教のお話をしてくれて、心身を清めて集中できる

し、他の参加者も熱心に取り組んでいる。こういう環境に身を置くのは貴重」と話してくれた。

七時四十五分、写佛再開。写す速さは十人十色なので、既に終わってしまつて手持無沙汰な方も散見された。そして八時十五分に写佛終了。全員で普回向・略三宝をお唱えして合掌一礼。その後柴田師の法話があつて、八時四十分で解散となつた。

以上、カフェの流れを紹介してきたが、特筆すべき点を最後に述べたい。メンバーは毎回《カフェ再進情報》を発信しており、宗務所禅センターの佛教講座・教区主催の禅の集い・メンバー各々の師寮寺で行なわれている梅花講や坐禅会などを参加者に知らせている。「月いちカフェはカジュアルな形の、いわば佛教の入口。ここで興味を持ってくれた方が、宗務所や寺院の行事に来てくれれば…」と柴田師は話してくれた。

私はこの取材を通して、メンバー諸師の真摯な活動に強い感銘を受けた。こういった活動によって宗門信仰の裾野は広がっていくのだと、改めて感じた次第である。

(佐々木耕志 記)



曹青秋田／第79号

発行／秋田県曹洞宗青年会

事務局／秋田市寺内神屋敷11-6 西来院内

発行責任者／中村卓道

編集責任者／菊地大樹

秋曹青ホームページ

<http://www.sousei-akita.net/>